

サイクロン「街一変」

ミャンマーのAMD A職員 早急な支援訴え

「一日で街の風景が一変した」。大型サイクロンの被害に見舞われたミャンマーで活動中の国際医療ボランティアAMD A（本部・岡山市）職員・竹久佳恵さん（三十三）が八日、山陽新聞社の電話取材に被害の状況を語った。家屋の損壊や倒木がすさまじく、飲み水の不足で子どもの病気も増加。生活、医療両

面で支援が急務となっている。（5面関連）竹久さんは同国で母子対象の保健事業や貧困農村への支援を担当。被災時は最大都市ヤンゴンで、AMD A現地事務所から知り合

電気、水道などのライフラインは徐々に回復しつつあるが、完全復旧には最低でも一カ月はかかる見込み。物価が高騰し、食料品は通常の二倍、バス運賃は二十倍に跳ね上がった。現地ではテントや食

料品、医薬品、木を切るためのチェーンソーなどが不足。特に飲み水が足りず、乳幼児が下痢や発熱を起こしているという。「住民の喪失感は計り知れない」と竹久さん。具体的な支援地域や内容はまだ決まっていないが、巡回診療など早期の支援開始に向け政府の関係機関と毎日調整を続けている。（阿部光希）

高島屋前で活動資金のための募金活動を実施。郵便振替（0125012140709）でも寄付金を受け付けている。口座名は「AMD A」で、通信欄に「ミャンマー・サイクロン」と記入する。（水嶋佑香）

AMD A調整員 被災地向け出発

あす岡山で募金活動
AMD Aの谷口敬一郎調整員（三十三）は八日、被災地ミャンマーに向け出発した。タイのバンコク経由でミャンマーへ入る。

既に現地で活動している職員と連携して関係機関と調整。巡回診療のサポートや医薬品、食料など支援物資の配布などを行う。

また、AMD Aは十日午前十時から正午まで、岡山市本町の岡山

物資3万点の緊急輸送決定

国際貢献献学校 公設国際貢献献大学校（新見市哲多町田淵）はAMD Aグループの連携協力協定に基づき、物資約三万点の緊急輸送を決定。八日、第一便として皮膚屑浄綿、感染対策マスク、ばんそうこうなど三千六百点を発送した。職員が大学校に備蓄している物資を段ボール箱に詰め、専用トラックに積み込んだ。空輸し約一週間後、AMD Aヤンゴン事務所に届けられる。現地の要請に応じ、追加物資も順次送る予定。

大学校は二〇〇二年五月、当時の駐日ミャンマー大使夫妻を招き、交流事業を実施。今月五日付で同国大使館（東京都品川区）にお見舞いの書簡を送り、支援の申し出をした。大学校はブルーシート（未使用）の提供を募っている。問い合わせは同校救済室（0867962062）。（大立貴巳）



屋根や壁が吹き飛ばされた家が多くあるヤンゴン市内